

第7学年 学びのカテゴリー「社会」

第7学年は、昨年度までにまちづくりに関わる探究を通して、まちがよりよくなるために自分ができることは何かを考え行動してきた。そのことを通して、まちに住む人の価値観は様々であり、人々の生き方は多様であることを知り、そこへの興味・関心をもった。だからこそ、第7学年「社会」では、多様な人々と向き合い、よりよい社会になるように「自主的に考え行動すること」「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努めること」など、本校第7学年で願う姿に迫りながら、自己実現に向かう資質・能力を育てている。

「社会を創っている人とは」の単元では、若狭研修での漁師の方との対話を通して、「漁師の方たちは自分の仕事に誇りをもっていること」「様々な願いをもちながら働いていること」などを知った。それとともに、「社会の中で働いている人たちはどのような願いをもって働いているのだろうか」という疑問や、『社会とは何か?』という大きな問いを考えていくために、「様々な職種の方の気持ちを聞きたい。」という思いが湧き上がってきた。

「社会に参画してみよう」の単元では、様々な方と共に社会に参画することで、1組は「働くとは何か」、2組は「人の役に立つとはどういうことか」、3組は「協働とは何か」という問いについて考えていく。そのために、職場体験でお世話になった事業所の方々や岐阜市役所鉄道高架推進課の方々からお話を伺ったり、社会参画における意見交流などを継続的に行ったりして、問いについて探究を続けている。1組は、職場体験を通して働く上で大切にしていることについて探究しており、2組は、岐阜市役所鉄道高架推進課の方とともに「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」の実施に向けて準備を行っている。

今西 賀寿真
平尾 龍平
江口 伸一郎
岡本 恭子

7年1組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：社会（全85時間）

第7学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		問題解決に向けて、具体的な根拠を元に、他者の考えや価値観を尊重しながら、客観的な事実を踏まえて自分の考えを書くこと話することができるようにする。											
	(2) 関係構築力に関わって		実社会で活動する人や仲間の考えを聞いたり、自分の考えを筋道立てて伝えたりする中で、対立やジレンマに対して、互いに納得できる考えを創り出したり、双方の考えを取り入れたりできるようにする。											
	(3) 貢献する人間性に関わって		自分や身近な社会のよさに気づき、よりよい社会にするために努力する人々に敬意をもちながら、自分にできることを、仲間や社会に生きる人々と共に行動しようとする態度を養う。											
カテゴリー設定の理由	第6学年では、まちがよりよくなるために自分ができることは何かを考え行動してきた。そのことを通して、まちに住む人の価値観は様々あり、人々は多様であることを知り、そこへの興味・関心をもった。だからこそ、第7学年では、多様な人々と向き合い、よりよい社会になるように自分なりに考え行動することでリアルな社会を知ることができる考えた。													
学びの基盤となる道徳的諸価値	自主、自律、自由と責任・向上心、個性の伸長・真理の追究、創造・思いやり、感謝・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・公正、公平、社会正義・勤労・国際理解、国際貢献・よりよく生きる喜び													
学びを構成する要素	共感 多様性（雇用 勤労 障がい 仲間 世代 福祉 幼児 国際理解 伝統文化 違い 偏見 ユニバーサルデザイン 食品ロス 動物愛護 よりよいまちづくり）													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
単元名(時数)	社会をよりよくしようとする人たちの思いを知る (30時間)					社会をよりよくするために自分たちにできることは何か (40時間)					よりよい社会に生きるために (15時間)			
主な学習活動	<p>○探究テーマを考える。</p> <p>○若狭研修を通して、自分たちと「食」でつながっている漁師という仕事について知る。</p> <p>○漁師さんの思いを社会は実現できているのかを考える。</p> <p>○「社会」という捉えについて、自分たちと社会人との違いを知る。</p> <p>○「働く」とは何かを探究する。</p> <p>○「働く」意味を知るために、実際に社会の中で働いている保護者の方に話を聞く。</p> <p>○働く上で大切にされている思いを知る。</p>					る「働く」とを調査する。するために、働く上で大切にしている	<p>○たくさん大人の話を聞くことで、働くことは社会をよりよくすることにつながっていることを知る。</p> <p>○自分たちの生活している社会である学校をよりよくするためには、どのような問題があるのかを考え、附属学校に関わる大人にも問題を聞く。</p> <p>○「学校」という社会をよりよくするために、自分たちにできることは何かを考える。</p> <p>○実際に職場体験学習を通して、その人たちが見ている社会や、その社会をよりよくするためにどのように努力されているのかを体験する。</p> <p>○附属学校の登下校時のマナーを守るようにするための活動を行う。</p> <p>○自分たちの活動が意味あるものであったのかを調査する。</p> <p>○学校以外の社会においても、自分たちがよりよくするための何か活動ができないかを、職場体験学習の経験をもとに考え実行する。</p>					<p>○学びをどのようにまとめるか計画を立てる。</p> <p>○今後も自分たちにできそうな活動を考える。</p> <p>○1年間の活動を振り返る。</p> <p>○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートを記入する。</p>		
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	<p>●働く人は、それぞれがよりよい社会を願って大切にされている思いがあるが、それが実現することは難しいのに、活動し続けることに意味があるのか分からない。</p> <p>■社会について「働く」を軸に考えてきたが、社会とは何かがなかなか見えてこない。</p> <p>【自主、自律、自由と責任・思いやり、感謝・遵法精神、公德心・公正、公平、社会正義・勤労など】</p>						<p>■附属学校という社会をよりよくしたいと思うが、具体的にどのような方法でいえば効果的であるかが分からない。</p> <p>■自分たちが考えた活動で、本当に社会がよりよくなっているか分からない。</p> <p>●自分たちも、この活動をする思いがあるし、それを一緒に活動してくれない人がいることもよく分かるが、社会がよりよくなっていくためにこういった違いがあり続けているのか分からない。</p> <p>【向上心、個性の伸長・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・公正、公平、社会正義・勤労・よりよく生きる喜びなど】</p>							
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・若狭漁港 ・Bリーグ長崎ヴェルカアストレッチトレーナー ・株式会社松福 						<ul style="list-style-type: none"> ・美濃染元 福田屋 ・岐建 株式会社 ・セントラルメンテナンス ・岐阜中央郵便局 ・その他職場体験先の事業所 							
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の人の生活と環境 中世の日本 ・保健体育：スポーツの多様性 ・家庭科：私たちの衣生活 ・外国語：Friends in New Zealand 						<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の諸地域 近世の日本 ・保健体育：心身の発達と心の健康 ・家庭科：私たちの住生活 ・外国語：Foreign Artists in Japan Think Globally, Act Locally 					<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の諸地域 近世の日本 ・保健体育：心身の発達と心の健康 ・家庭科：私たちの住生活 私たちの成長と家族・地域 ・外国語：This year's Memories 		

7年1組 単元シート	本単元の目標		
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 社会をよりよくするために自分たちにできることは何か (40)	①社会をよりよくするために、自分たちの身の回りの社会である学校で起こりうる問題を発見できるようにする。 ②問題解決のために自分たちに何ができそうかを考えることができるようにする。	①社会をよりよくするために、他者の思いや考えを肯定的に受け止め、そこから自分の考えを生み出すことができるようにする。 ②互いに納得できる考えを生み出すことができるようにする。	①中学生の自分たちでもできることは何なのかを本気で考え、実際に動き出そうとする態度を養う。

活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○社会を少しでもよくしようと考え行動している人の思いを実感するための職場体験学習を計画する。(問題①) ○自分たちが生活している附属学校の問題は何かを考えるために、附属学校に関わる大人の考えを聞く。(関係①) ○附属学校における問題の「登下校のマナー」について自分たちにできることはないか考える。(関係②) <p>(10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習を通して、誰もが「その人が見ている社会が少しでも良くなるように自分にできることは何か」を考え行動していることを知り、中学生の自分たちにできることを考える。(問題①) ○附属学校における問題の「登下校のマナー」を改善するための活動計画を考える。(関係②) <p>(10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「登下校のマナー」を改善するための活動を実際に行う。(貢献①) ○活動を行って初めての感想や意見を集め、自分たちが活動してきたことで得られたことを考える。(関係①) ○自分たちの活動に参加してくれなかった人たちの思いに触れ、一緒に参加できるように新たな活動を生み出す(関係②) <p>(10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の中以外にも、自分たちが社会をよりよくするためにできることはないかを考える。(問題②) ○職場体験学習を通して見つけた問題を振り返り、自分たちにできることはないかを考える。(貢献①) ○活動計画を考える。(関係②) <p>(10)</p>
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

加除修正欄	○附属学校には自分たちで改善できる問題と、そうでない問題があることを知る。(問題②)	○職場体験学習先で学んだ、問題解決の方法をもとに、附属学校の問題を解決するための方法を考える。(関係①)	○「登下校のマナー」だけでなく、「飼育動物の扱い」「感じのよい附属生」「あいさつ」などの附属学校の問題を解決しようとする。(貢献①)	
-------	--------------------------------------------	------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	--

想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも実際に体験したら、大切にしていることがなぜ大切なのかを知ることができるのかもしれない。 ・実際に職場体験へ行きたい。 ・働くことを通さなくても、自分たちが見ている学校という社会の問題であれば解決できるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く上でその人が見ている「社会」を少しでもよくしようと努力されている姿をみて、自分たちも社会をよりよくする活動をしたと思った。 ・働く大人たちと同じように、自分たちはまず附属学校の問題を解決したい。 ・どうすれば、登下校時のマナーを改善することができるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが行った活動で効果があったのかを様々な人に聞いてみたい。 ・自分たちがやろうとしていたことに、協力してくれない人もいたけれど、どうすればよかったのだろうか。 ・何も変わらないように見えても少しでも社会のためになったのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外にも社会はたくさんあるのだから、その社会をよりよくするために自分たちにできることがあるのではないかな。 ・職場体験先で見つけた社会の問題を、もしかしたら自分たちで少しは良い方向へ進めることができるのかもしれない。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで改善できる問題があるのにも関わらず、何も行動しないのはおかしい。何とかして、附属学校をよりよい学校にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーが悪い人たちに、どのように伝えれば改善してもらえるのだろうか。 ・一緒にバスを使っている人たちはどんな思いで乗っているのだろうか。 		
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

● ジレンマ ■ エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■働いていない自分たちに、社会のために何ができのかが分からない。 ■マナーを守ってもらいたと思うが、効果的な方法が思いつかない。 ●自分たちが、社会をよりよくするために考えた活動は、協力してくれる人もいたし、協力してくれない人もいたが、意味のない活動だったのだろうか。 ●価値観の違いによって、社会はうまく回っていないと考えていたが、価値観の違いはあってはいけないことなのだろうか。
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7年1組 本時案 (7年1組教室)

目標

各々が附属学校の1番の問題であると考えた問題を改善するための活動を振り返ったり新たに考えたりすることを通して、「附属学校という社会をよりよくしたい」という願いを基に、今後どうしていけばよいのかを考えていく。(貢献する人間性)

本時(29/40)

活動内容(○教師の発問・予想される児童生徒の発言)				○教師の手立てと見届け																
<p>1 自分が1番の問題だと思ったことに対して、どうすれば改善することができるのか考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">問題を解決するには、どんな視点で、どんな活動を行う必要があるのだろうか。</p> <p>○附属学校の問題を改善、解決するためにどうしていけばよいのかをグループでまとめていきましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">★登下校バス内の過ごし方</th> <th style="width: 25%;">登下校電車の待ち方</th> <th style="width: 25%;">感じのよい附属生</th> <th style="width: 25%;">飼育動物の扱い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・バスを実際に利用している人が何のために利用しているのかを聞き、その隣に座るあなたはどのよう過ごすかという啓発CMを作りたい。</td> <td>・電車を待つ際にうるさくなっている現状を伝え、どのようにすればよいのかの啓発ポスターを作りたい。</td> <td>・藤井校長先生の思いを聞いて、自分たちが考えたことを放送する。それが、どう影響したのかを調べたい。</td> <td>・4年生の飼育活動を実際に見て、感じたことや思ったことをもとに、よりよくするために一緒に飼育活動を行っていきたい。</td> </tr> <tr> <th>感じのよい附属生</th> <th>登下校のマナー</th> <th>不要物の持ち込み</th> <th>あいさつ</th> </tr> <tr> <td>・附属生が実際にどれだけ意識できているのかを調査したい。</td> <td>・マナーの良い姿悪い姿について、他学年にもアンケートをとり、現状を把握したい。</td> <td>・どんなものが不要物なのかを伝えるポスターを作成したい。</td> <td>・すれ違いあいさつや、教室に入るときあいさつを元気づけようというポスターを作成したい。</td> </tr> </tbody> </table> <p>・どうすれば、自分たちの思いがより伝わるのか分からない。 ・こうしてほしいという呼びかけや、そのポスターだけで本当によくなっていくのか分からない。</p> <p>2 仲間の活動を見て、自分たちに取り入れられそうなものがないかを考える。</p> <p>○★グループの作っているCMをみんなで見ると、自分たちの活動と違うところや、取り入れられそうなものはないですか。 ・自分たちは既に放送を行って見たが、「こうしましょう」と呼びかけているだけだった。★グループのように、みんながもう一歩踏み込んで考えるような工夫が無いと、思いが伝わらないと思った。 ・附属学校の児童生徒という社会でしか問題を伝えられていなかったけれど、もっと違う視点で考えて伝えていきたい。 ・★グループのCMを見て、自分の見ている世界が広がるような感じがした。バスだけでなく、登下校時にはたくさんの人と一緒に社会を共有しているということを、みんなに伝えればマナーがよりよくなるのではないかな。 ・バスの中も1つの社会で、様々な人たちがいることや、その人のことを考えるという視点が自分たちにはなかったから、ポスターを描き直したい。</p> <p>4 本時の学びの振り返りをワークシート(メタモジ)に書く。</p> <p>・私は、今まで附属学校がよりよくなると思って、「マナーやルールを守りましょう。」というポスターを作成して掲示してきたけれど、今日★グループのCMを見て、自分は附属学校という社会でしかこの問題が捉えられていないのだと気付いた。社会は様々な場所であって、視点を変えることで、相手に深く考えてもらえるのではないかなと思った。現に自分がそうだった。実際に★グループの人たちに、もっと周りに目が向けられるようなポスターにした方が、マナーやルールを守る意味が伝わるのではないかとアドバイスももらった。次回はそのアドバイスをもとにポスターを作り直したい。</p>				★登下校バス内の過ごし方	登下校電車の待ち方	感じのよい附属生	飼育動物の扱い	・バスを実際に利用している人が何のために利用しているのかを聞き、その隣に座るあなたはどのよう過ごすかという啓発CMを作りたい。	・電車を待つ際にうるさくなっている現状を伝え、どのようにすればよいのかの啓発ポスターを作りたい。	・藤井校長先生の思いを聞いて、自分たちが考えたことを放送する。それが、どう影響したのかを調べたい。	・4年生の飼育活動を実際に見て、感じたことや思ったことをもとに、よりよくするために一緒に飼育活動を行っていきたい。	感じのよい附属生	登下校のマナー	不要物の持ち込み	あいさつ	・附属生が実際にどれだけ意識できているのかを調査したい。	・マナーの良い姿悪い姿について、他学年にもアンケートをとり、現状を把握したい。	・どんなものが不要物なのかを伝えるポスターを作成したい。	・すれ違いあいさつや、教室に入るときあいさつを元気づけようというポスターを作成したい。	<p>○見通しをもって主体的に活動を進められるように、それぞれのチームがしたいことや、そのチームが問題と考えていることを明確にする。 ○職場体験学習先の問題解決の方法をもとに活動することで、問題解決の方法に根拠をもって活動できるようにする。 ○切実感をもって活動に取り組むために、自分が問題だと思っていることと共通の問題意識を持っている仲間とチームを組むことで、協働的に活動を進められるようにする。 ○問題を多面的多角的に捉えて活動を行うために、★グループの活動と自分たちの活動を比べることで、新たな視点や視野の広がりがあるような活動へと変化していく。 ○★グループのCMと自分たちの活動との違いを問うことで、視点の変化や視野の広がりが必要であることを生徒自身が感じ活動へとつなげていく。 ○チームで本時考えたことや、今後行う活動について他チームに説明する場を設け、お互いの活動に意見を出し合い、見る人の思いやどう感じるのかを素直に言い合うことで、よりよい附属学校を作っていくための活動にするためにはどんな工夫が必要であるか考えていく。 ○生徒の振り返りを、「問題解決力」「関係構築力」「貢献する人間性」と結びつけて価値づけていく。</p>
★登下校バス内の過ごし方	登下校電車の待ち方	感じのよい附属生	飼育動物の扱い																	
・バスを実際に利用している人が何のために利用しているのかを聞き、その隣に座るあなたはどのよう過ごすかという啓発CMを作りたい。	・電車を待つ際にうるさくなっている現状を伝え、どのようにすればよいのかの啓発ポスターを作りたい。	・藤井校長先生の思いを聞いて、自分たちが考えたことを放送する。それが、どう影響したのかを調べたい。	・4年生の飼育活動を実際に見て、感じたことや思ったことをもとに、よりよくするために一緒に飼育活動を行っていきたい。																	
感じのよい附属生	登下校のマナー	不要物の持ち込み	あいさつ																	
・附属生が実際にどれだけ意識できているのかを調査したい。	・マナーの良い姿悪い姿について、他学年にもアンケートをとり、現状を把握したい。	・どんなものが不要物なのかを伝えるポスターを作成したい。	・すれ違いあいさつや、教室に入るときあいさつを元気づけようというポスターを作成したい。																	
<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>自分たちが行って来た、行おうとしてきた活動が問題解決につながったのか、繋がるのかを考え、「附属学校という社会をよりよくしたい」という願いを基に、様々な視点をもってこの先の活動を考えることができる。</p> <p style="text-align: center;">(貢献する人間性)</p> <p>・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。</p>																				

7年2組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：社会（全85時間）

第7学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		問題解決に向けて、具体的な根拠を元に、他者の考えや価値観を尊重しながら、客観的な事実を踏まえて自分の考えを書くこと話することができるようにする。											
	(2) 関係構築力に関わって		実社会で活動する人や仲間の考えを聞いたり、自分の考えを筋道立てて伝えたりする中で、対立やジレンマに対して、互いに納得できる考えを創り出したり、双方の考えを取り入れたりできるようにする。											
	(3) 貢献する人間性に関わって		自分や身近な社会のよさに気づき、よりよい社会にするために努力する人々に敬意をもちながら、自分にできることを、仲間や社会に生きる人々と共に行動しようとする態度を養う。											
カテゴリー設定の理由	第6学年では、まちがよりよくなるために自分ができることは何かを考え行動してきた。そのことを通して、まちに住む人の価値観は様々あり、人々は多様であることを知り、そこへの興味・関心をもった。だからこそ、第7学年では、多様な人々と向き合い、よりよい社会になるように自分なりに考え行動することでリアルな社会を知ることができると考えた。													
学びの基盤となる道徳的諸価値	自主、自律、自由と責任・向上心、個性の伸長・真理の追求、創造・思いやり、感謝・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・公正、公平、社会正義・勤労・国際理解、国際貢献・よりよく生きる喜び													
学びを構成する要素	共感 多様性（雇用 勤労 障がい 仲間 世代 福祉 幼児 国際理解 伝統文化 違い 偏見 ユニバーサルデザイン 食品ロス 動物愛護 よりよいまちづくり）													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
単元名(時数)	社会を創っている人とは (30時間)					社会に参画してみよう (40時間)					社会の一員になろう (15時間)			
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○探究テーマを設定する。 ○様々な方との対話を通して、社会の一員として生きている方の思いに触れる。 ○社会の一員としてボランティア活動に参加し、「人の役に立つこと」の意味について考える。 ○活動に参加する中で生まれるエラーやジレンマについて考える。 ○問題解決の方法について、多面的・多角的に考える。 ○今後の活動の見直しを立てる。 ○夏休みの計画を立てる。 					を 考 え の 、 回 実 り 行 の す 問 題 を 見 つ め 直 し 、 人 の 役 に た つ こ と	<ul style="list-style-type: none"> ○岐阜県赤十字血液センターの方と協働し、岐阜駅で献血の呼びかけ活動を行うとともに、献血センターでできることや献血がどのように役立てられているかを宣伝する活動を通して、人の役に立つことの意義について考える。 ○岐阜市役所鉄道高架推進課の方と協働し、「駅とまちを光でつなぐ社のイルミネーション」の企画に参加する。「岐阜市の玄関口である岐阜駅を美しく彩ることで岐阜市を活気づけたい」「岐阜市の伝統工芸品とイルミネーションを組み合わせることで岐阜市の伝統工芸品の魅力を広めたい」という願いの実現に向けて、鉄道推進課の方の力を借りながら、イルミネーション作品を作成する。 ○イルミネーションの企画に携わる方の思いや岐阜市の伝統工芸品についての宣伝活動を行い、社会に参画することの意義について考える。 ○自分たちの行動が人の役に立っているかを考える。 					<ul style="list-style-type: none"> ○学びをどのようにまとめるか計画を立てる。 ○社会の一員として、他者のためにできることを考える。 ○実践の計画を立てる。 ○1年間のプロジェクトを振り返る。 ○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートを記入する。 		
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ●何かを消費するだけで人の役に立っているのか、それとも他者に感謝されて初めて人の役に立ったと言えるのか。 ■介護や医療の現場でボランティア活動をしたと考えていたが、人の命の重さや中学生にできることを考えると難しいと断られてしまった。 【自主、自律、自由と責任・尊法精神、公德心・公正公平、社会正義・思いやり・勤労など】						<ul style="list-style-type: none"> ■献血に対する敷居の高さを感じている人たちが大勢いる。また、若年層の献血をしている人の人数が減少傾向にある。こういった問題を解決していくためにはどうしたらいいか。 ●岐阜市を訪れる様々な方は、年齢も国籍も多様である。そのなかで、どんな人たちにも伝わるようにイルミネーションに携わる方の思いを届けたり、岐阜市の伝統文化を広めたりしていくためにはどうすればよいのだろうか。 【相互理解、寛容、社会参画、向上心、個性の伸長、よりよく生きる喜びなど】					<ul style="list-style-type: none"> ●岐阜市に住んでいる人々と共に、様々な問題と向き合い生きていくにはどうすべきかと葛藤する。 【相互理解、寛容・よりよく生きる喜びなど】		
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市役所 ・岐阜市介護福祉センター ・岐阜市生涯学習センター 						<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市役所鉄道高架推進課 ・岐阜県赤十字血液センター ・岐阜市歴史博物館 ・スターエム(株) ・CHIKAKENプロダクツ(株) 					<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市役所 ・岐阜県赤十字血液センター 		
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の人々の生活と環境 中世の日本 ・保健体育：スポーツの多様性 ・家庭科：私たちの衣生活 ・外国語：Friends in New Zealand 						<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の諸地域 近世の日本 ・保健体育：心身の発達と心の健康 ・家庭科：私たちの住生活 ・外国語：Foreign Artists in Japan Think Globally, Act Locally 					<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の諸地域 近世の日本 ・保健体育：心身の発達と心の健康 ・家庭科：私たちの住生活 私たちの成長と家族・地域 ・外国語：This year's Memories 		

7年2組 単元シート		本単元の目標		
単元名 社会に参画してみよう (40)		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
		①社会に参画することを通して、目的を達成するために大切なことや必要なことを考えることができるようにする。 ②自分にできることは何かを考え判断し、実行することができるようにする。	①様々な人の意見や仲間の考えを肯定的に聞いたり、自分の考えを筋道を立てて伝えたりすることができるようにする。 ②対立やジレンマに対して、互いに納得できる考えを創り出したり、双方の考えを取り入れたりしながら活動することができるようにする。	①社会の一員として、人々の幸せのために活動している方の思いにふれることを通して、よりよい社会にするために努力する人々に敬意をもちながら、自分にできることを考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。
活動の計画	○献血の呼び込み活動にあたって、岐阜に住む人たちにどのようなことを伝えたいかを話し合う。(関係①) ○若年層の献血に協力してくださる方が減少傾向にある原因を考え、対策を考える。(問題①) ○岐阜県赤十字血液センターの方と共に岐阜駅で献血の呼び込み活動を行う。(貢献①) (8)	○市政を通して人の役に立っている市役所の方の思いを聞きたいという生徒の願いをもとに、鉄道高架推進課の方から「駅とまちを光でつなぐイルミネーション」事業の話を聞く。(関係①) ○イルミネーション事業に関わって、自分たちにできることを考え、鉄道高架推進課の方へ提案をする。(問題②) (8)	○竹の灯りイルミネーション作り・看板作り・広告宣伝の3つのグループに分かれ、制作活動を行う。(問題②) ○中間報告会で鉄道推進課の方へ進捗状況について報告をし、迷っていることなどについてアドバイスをもらう。(問題②)、(関係②) ○事業についてのインタビューを行い、その結果をもとに、自分たちの活動は人の役に立っているかを考える。(関係①、②) (14)	○イルミネーション事業について、事業が市民の方々にどう受け止められているかを調査する。(問題①) ○調査結果をまとめ、鉄道推進課の方へ報告する。(問題②) ○市政に参画して感じたことについて振り返り、「人の役に立つとは」という問いについてまとめる。(貢献①) (10)
加除修正欄	○対話を通して、現時点での「人の役に立つ」とはどういうことかを整理する。			
想定される姿	・献血の流れや献血ルームの中の様子が分かるようにすると、献血に協力してくれる人が増えるのではないかな。 ・呼び込み活動をするなかで、一回も献血をしたことのない人が「やってみよう」と言ってくれて嬉しかった。	・これまでイルミネーションを観て「綺麗だな」と思っていたけど、その事業を計画している方の思いは考えた事もなかった。 ・イルミネーション事業に参加することで、岐阜のまちを活気づけたり、岐阜市の伝統工芸品の素晴らしさを伝えたりしたい。	・竹の灯りを美しく作るコツを知りたいな。制作している方に教えてもらおう。 ・看板はどのように作るとよいだろう。看板を制作している人はどのようなことを考えて作っているのかな。 ・イルミネーションについて好意的に思っていない人もいる。自分たちの活動は人の役に立っていると言えるのだろうか。	・イルミネーションを楽しんで観てくれている方はたくさんいた。自分たちがしたことが様々な人たちの喜びにつながって嬉しかった。 ・携わる人の思いは予想よりも伝わってなかった。でも、イルミネーションを楽しんでくれている方が大勢いるだけで自分も幸せな気持ちになった。
実際の姿	○人の役に立つとはという問いについて次のような3通りの考えができた。「相手と自分、両者が嬉しい気持ちになること」、「相手を思い行動すること」、「自分が幸せになること」			
● ジレンマ ■ エラー	■ 献血に対する敷居の高さを感じている人たちが大勢いる。また、若年層の献血をしている人の人数が減少傾向にある。こういった問題を解決していくためにできることは何だろうか。		● イルミネーションを楽しみにしている人もいれば、税金の使い道についてや治安の悪化などを心配して、好意的に見ていない人もいる。自分たちのしていることは本当に人の役に立っているのだろうか。	

7年2組 本時案 (7年2組教室)

目標

岐阜の伝統工芸品の魅力や職人の方々の思いを発信したいという願いの実現に向けて制作した動画やオーナメントを岐阜市役所の方に観ていただくことを通して、多くの方へ思いを届けることができるものになっているかどうかを振り返り発信する内容について再考することができる。(問題解決力)
本時 (21/30)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 本時の目的を確認する ○「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」に向けて、市役所の方にみんなが作った動画を観てもらいましょう。</p>	<p>○生徒がスライドをもとにこれまでの探究の歩みについて、市役所の方に話をするので、今回の授業の目的を市役所の方と共有する。</p>
<p>作成した動画は、私たちの発信したい願いが伝わるものになっているだろうか。</p>	
<p>2 各グループに分かれ、動画の趣旨を市役所の方に伝え、作成した動画を観てもらおう。</p>	
<p><のぼり鯉グループ> ・登り鯉に使われている色の由来と、泳いでいるように見えるための工夫について知って欲しくて動画を作りました。 ・中国の五行思想をもとに5色を使って登り鯉が描かれており、安泰と繁栄の意味が込められています。 ・和紙を揉むことで柔らかく温かい質感を出すことと、飾ったときに風に揺れて空を泳ぐように見えることを意識しています。</p>	<p>○各グループに市役所の方に入ってくださいことで、それぞれのグループで作成した動画を視聴していただき、どのような思いで動画を作成したのかを伝えたり、意見を聞いたりできるようにする。</p>
<p><岐阜和傘&岐阜提灯グループ> ・岐阜和傘が華奢な細身の美しい傘であること、光に透かした時の色彩などの美しさを伝えたくて動画を作りました。 ・蛇目傘、番傘、日傘など、和傘も用途によって様々な種類があり、造りにも違いがあります。 ・岐阜提灯は実用品ではなく美術工芸品であり、だからこそ1つ1つ職人が心を込めて作っていることを伝えたくて動画を作りました。 ・花の種類を多様化させたり、様々なサイズの物を作ったりして現代のニーズに合うように日々試行錯誤を繰り返しています。</p>	<p>○中学生である自分たちだからこそできるアプローチの仕方を考え、動画やオーナメントの制作に生かそうとしている生徒の姿を価値づける。</p>
<p><筒引き染め&オーナメントグループ> ・筒引き染めの美しさと、縁起を担ぐための色彩のきまりと、字体の秘密を伝えたくて動画を作りました。 ・オーナメントは、「伝統工芸品だけでなく中学生の豊かな発想を大切に制作してほしい。」という、市役所の方の思いのもと、「岐阜のまちを明るく照らしたい」という願いを込めて作りました。</p>	
<p>3 市役所の方の意見を聞き、発信する内容について再考する。 →取材をしたからこそ分かったことや、自分たちが実際に見たり触れたりして感じたことを伝えたいという気持ちが伝わってきた。そういった思いをより伝わるようにするために、インタビューの動画に字幕をつけたり、写真だけでなく自分たちの声として感想などを動画に組み込んでいったりすると良いのではないかな。</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 岐阜市役所の方のアドバイスをもとに、作成した動画が多くの方へ思いを届けることができるものになっているかどうかを振り返り、発信する内容について再考している。(問題解決力)</p>
<p>4 本時の活動を振り返る ・イルミネーションの企画をしている市役所の方とは違う切り口で「岐阜のまちを明るく照らすこと」と「伝統工芸品の魅力を伝えること」について活動できていると感じた。今回教えてもらったことを動画に反映させて、市役所の方と共にイルミネーション事業を成功させたい。</p>	<p>・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。</p>